

広報 あらしや

'72

第13号

小学校3年生～中学校3年生用

每学期発行



あすの芦屋

□まちづくり計画のあらまし

〈その1〉

あすの芦屋

市では、昭和60年を目標とするまちづくりの計画をつくりました。この計画は、健康で清潔な住宅都市の建設をめざしています。

今回から3回にわたってそのあらましを勉強しましょう。

第1回は、みなさんが、住み、活動する舞台である土地の利用や、公園緑地、海の埋立てなどについてご説明します。

なお、昭和60年の人口を、10万人～12万人と考えています。面積は、埋立地(浜地区1.26km²、沖地区1.37km²)を含めて18.6km²です。



しょうらいぞう 将来像

芦屋市は、恵まれた自然の美と、建物などの人工の美、さらに、市民が協力してとなりの人を愛し、まちを愛する人間の美のそれぞれが調和した住宅都市を建設します。

このため、「自然の美」、「人工の美」、そして「人間の美」をそれぞれ次の三つのビジョンに具体化し、理想的なまちづくりを進めていきます。

○自然と調和した緑豊かな美しいまち

芦屋市は、緑豊かな美しい自然の風物に恵まれています。

この特性を生かして、まちの中に、木、草花、鳥などをふやしてまちを緑で包む「全市公園化」、自然の中のまちづくりをしていきます。

○都市機能の充実した住みよいまち

緑のベールに包まれた中で、市民が豊かな生活と文化を楽しむことができるように、本市の特性を生かして、本市でなくてはできない施設をつくり、住みよいまちづくりをしていきます。

○豊かな人間性と文化をはぐくむ健康なまち

すぐれた自然環境と人工環境のもとで、ひとりひとり市民がおたがいに協力し、まちを愛し、さらに市民自らが住みよいまちをつくりあげようとする気持ちをもって、香り豊かな文化を創造することができる清潔で健康なまちづくりをしていきます。

合理的な土地利用

山やまち全体に広がる恵まれた自然環境を守っていきます。

建物については、高い建物と低い建物が入りまじっていると、風通しや日あたりなど、いろいろな問題がおこるため、これらをはっきりと分けて、ととのったまちの美しさをくわっていきます。

また、今までからあるまちを新しい時代に合った、市民が安全で気持ちのよい生活ができるまちにつくりかえるため、再開発をすすめます。

緑を守り、

緑をふやす

みなさんもお存知のとおり、本市がある地域は、「阪神工業地帯」と呼ばれています。この中で、芦屋市は、六甲の山並みをうしろにして、住宅地として発達し、緑が多く美しい景色を保っています。

しかし、公害が激しくなり、また

開発などによって、しだいに自然や緑が失なわれようとしています。

このまま放っておくと、大変なことになるので、市では、「全市公園化」——自然の中のまちづくり——を目標に、今ある自然をできるだけ守りながら、新たにまちの中に自然を呼びもどし、さらに、つくり出していくことにしています。

そのためには、次のようなことを考えていきます。

▼山地—できるだけでもそのままのがたを守っていきます。

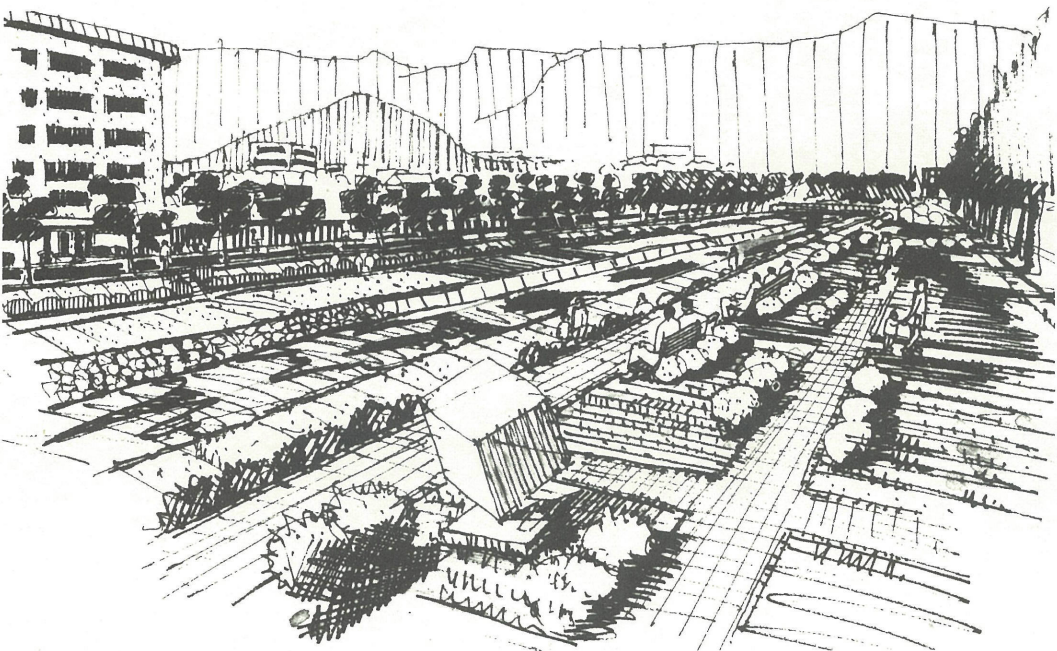
▼市街地

●芦屋川両岸は、市のシンボルとして緑道、歩行者および自転車専用道路とします。

●幹線道路は、緑地帯をつくり、道路の周囲には、できるだけ多くの緑地をつくっていきます。

●「山ろくグリーンベルト」（城山、前山公園、市立高校教材園、霊園、剣谷を結ぶ。）を市街地と六甲背山との間に緑の防波堤とし

「全市公園化」めざす とりもどそう美しい自然



芦屋川は両岸を公園化、ノーカーの人間天国に



恵まれた芦屋の緑をたいせつにしましょう



公園



公園で元気に遊ぶ子どもたち

てつくります。
これは、自然を保護するとともに市民ひとりひとりが自然に親しむ場となります。

●市民ひとりあたり十平方メートルを目標に大小さまざまな公園を計画的につくっていきます。

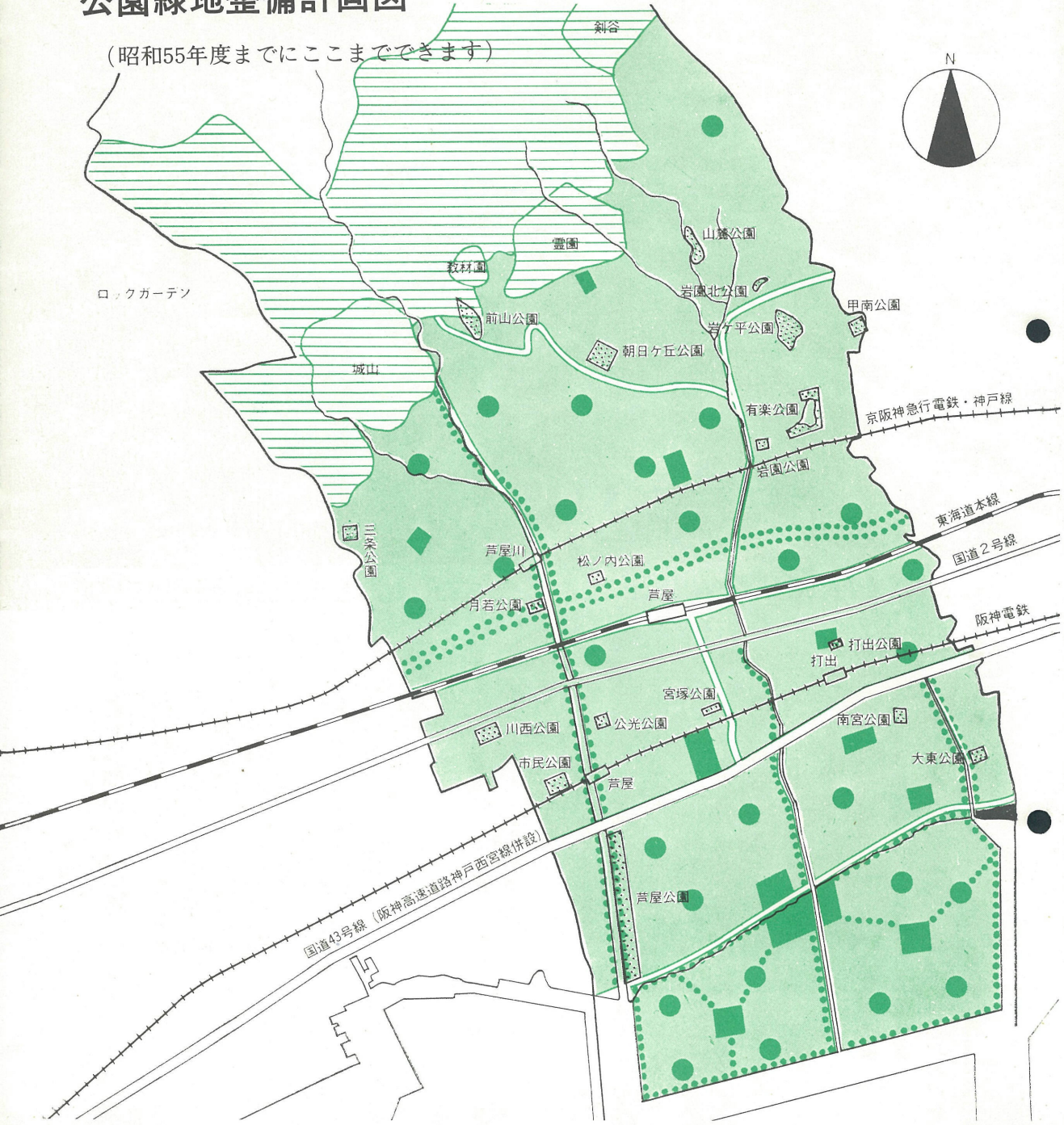
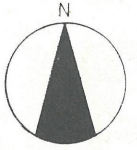
以上の緑地、公園、芦屋川・宮川・江尻川の緑道、山手幹線上の带状公園と緑道、山ろくグリーンベルト、山地のハイキングコースなどを結び市民が安全に歩きまわることのできる緑のネットワークをつくります。





▼これとともに、学校や官公庁などの建物の周辺も緑化していき、市民ひとりひとりの協力によって家庭の庭の木、草花などもどんどん育てていただきます。

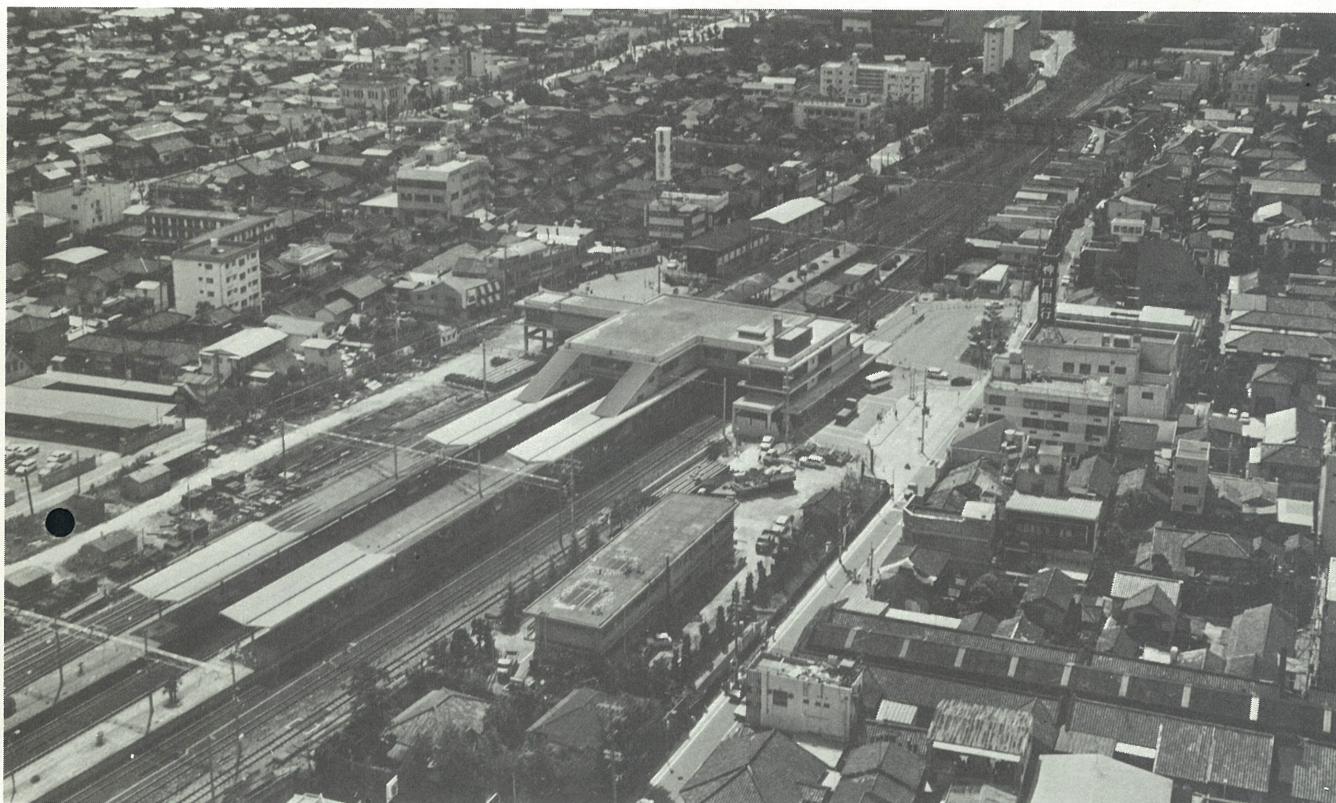
そのほか、休んでいる土地を利用して苗床をつくり、木や草花の栽培を行ったり、苗や種を配ったり、また、記念植樹など市民みんながひとつになつて緑化をすすめていきます。

公園緑地整備計画図

(昭和55年度までにここまでできます)



-  いまある公園
-  これからつくる公園
-  緑道
-  山ろくグリーンベルト



国鉄芦屋駅周辺

安全で、便利な道路

道路や、列車、電車、バスなどの通る道は、人でいうと血管にあたります。

道路は、とくに南北道路に重点をおいてとのえます。そしてそれと東西を結ぶおもな道路や、国鉄、私鉄との立体交差をすすめて交通の流れをなめらかにします。

今後は、ますます自動車が増えていきます。自動車による危険から市民を守るため、人を中心とした道路の整備がたいせつな問題です。

そのため、市民が自由に、安全に散歩をしたり、自転車を走らすことのできる自転車専用の道路をつくっていきます。

それは、芦屋川両岸、宮川右岸、江尻川両岸の道路の一部を緑道にすることや、歩行者・自転車専用道路を実現させる計画です。

また、山ろく遊歩道や山間ハイキングコースを整備します。

そのほかバス路線をふやして市民の足を便利にします。

駅周辺など再開発

以前から住宅や商店、市場などが建っている地区で、生活環境が悪くなったり、いろんな活動ができなくなっているところがあります。

このようなところは、市民のみさんの協力によって改造をしたり、再開発をすすめていきます。とくに各駅周辺は、便利で楽しい買物や、安全に通勤や通学のできるよう計画的に整備をすすめます。

理想の埋立地

山地は、自然の保護や災害を防ぐうえから、心身の健全な発達のための体育とかレクリエーションなどに使うことのほかは、開発を行わず、自然を大切に守っていきます。

現在、海の埋立工事がすすめられています。このうち、「芦屋浜地区」（百二十六ヘクタール）は、住宅地として、「芦屋沖地区」（百三十七ヘクタール）は、増大するレジャーのためのレクリエーション施設や、国際交流の場として利用します。

このようになる芦屋浜埋立地

芦屋浜の埋立工事はどんどんすす
められており、芦屋浜地区は、来年
九月にできあがる予定よていです。海を埋
立てて住宅地とする例は全国でもめ
ずらしいことです。

この埋立工事は、昭和三十八年こ
ろから市において行なうよう準備じゅんびをす
すめていましたが、その後、大阪湾おおい
全体の整備の中で行なうこととなり、
県が中心になってすすめています。

「芦屋浜地区」の埋立地をどのよ
うに利用するかについて、県でしら
べていましたが、この四月に発表さ
れました。

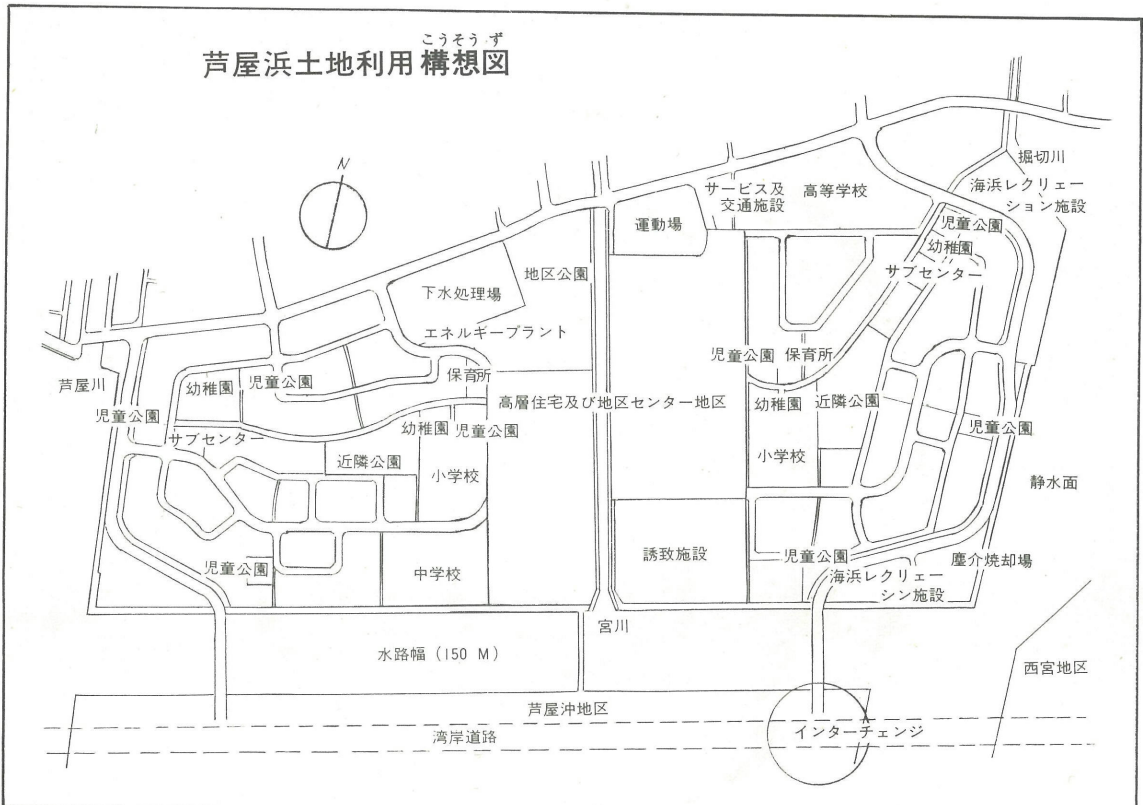
それは、住宅地として大切な条件
である、安全で、気持ちのよい新し
いまちをつくること、そしていまま
でのまちにたらない公共施設こうきしせつの整備
を考えています。人口は約二万人、
住宅は約六千戸こです。

施設のあらましは次のとおりです。

「全市公園化」の考え方に立って
公園緑地の整備や、学校、幼稚園、
公園などを結び、また、買物のため
の道として、自動車道路を通らない
で安心して歩くことのできる歩行者
専用の道をつくり、いまのまちの芦
屋川、江尻川の沿岸緑地えんがえにつながっ
ていきます。

地区公園周辺に「地区センター」
をつくり、おもに国道四十三号線か
ら南の住民を含めた人びとの毎日の
消費生活しょうみせいかのための商店を中心に銀行、
郵便局、医療機関いりょうきかんなどをつくります。
そのほか、いろいろな調査や研究
をする機関をもつてくることも考え
ています。

こうそうず
芦屋浜土地利用構想図



「計画はなぜ」 「必要だろうか」

わたくしたち日本人は、戦後の苦しい中からたち上がり、いっしょうけんめい働いてきました。そして昭和三十年代にはいり、経済は、急速に発展し、たべものや衣服もしだいに豊かになり、また、電気製品、自動車などがどんだんわたくしたちの生活の中にはいりこみ、物の面ではたしかに豊かになりました。いっぽう、まちには工場や人が集まりすぎたりして、いろいろな問題がでてきました。

すなわち、道路、公園、下水道とかいったみんなが共同で使う施設の整備がたいへんたちおくれ、そのため交通事故、公害などわたくしたちの安全や健康に直接影響を与えたり、身の回りの環境が悪くなってきたことは、毎日経験しているところでは。

このようないまわたくしたちがかかえている問題や将来予想される問題を「むだ」、「むり」、「むら」なくひとつひとつ計画的に解決していかなければなりません。

そのためにはどうしても計画が必要で

「計画はこうして

つくられた」

まちづくりの計画は、市民ひとりひとりのものです。市民の要望、意見、考え方などをじゅうぶんにとり入れる必要があります。このため市では、「世論調査」や市民との懇談会も開きました。また、専門的な立場からの助言、意見を聞くため、大学の先生がたの協力もいただきました。

計画は、このようにいろいろな人びとの参加と努力、くふうの結果できあがったものですので、みんなができるだけ理解し、実行できるようにしていきたいものです。

▼わたくしたちひとりひとりとは、将来こんな人になりたいとか、こんなことをやろうとか、それぞれ目標をもって生活しています。

これと同じように、七万市民の住む声屋市という地域社会にも目標が必要です。地域社会の目標は、人にとえれば、心と体や育ってきたその人の環境とをよく考えるのと同じように、まちの性格やまわりの状況をもとにしてさらに、将来

「計画のねらい」

するかをきめるもの

の社会の見とおしのもとに、もつともよい方向を見定める必要があるといえます。そして、地域社会の場合は、いろいろな考えをもっている多くのひとびとの納得できるものでなければなりません。

▼世の中がゆるやかにかわりつつあるときは、問題がおこってから手をうつてよかったです。最近のように、めまぐるしくかわる時代では、先の変化を見とおしておくれず、手をうつていかなければ取り返しつかないことにもなりかねません。

このように計画は、将来の目標を定めるものです。

▼みなさんのおとうさんやおかあさんが会社で働いて、もらう給料や、商売でも

次号は「市民生活」です